



あおもり 町連だより

第 160 号

平成13年10月発行会
青森市町会連合会
TEL 017(734)2584

ごみ収集所へ旗・ポール

平成13年度
市政懇談会

道路除雪テーマに意見

青森市町会連合会は7月22日(日)午後2時から市文化会館で、平成13年度市政懇談会を開き、雪対策に視点を充て「道路除雪を中心とした雪対策のあり方」をテーマに、行政へ市民の声を届け、市の施策へ反映するよう求めました。

懇談会には市町連から佐藤久雄・会長はじめ副会長・部会長、地域協議会長、地区連合町会長ら49人、市側から佐々木誠造・市長以下関係部課長が出席しました。

初めに佐藤会長が「市民生活に様々な影響を及ぼしていける雪処理のため、町会と行政が協力し合いながら地域住民が冬場を安全で快適に暮らせるよう、住民と一緒にになって取組んできましたが、高齢化の進展、ごみ分別収集の実施など環境の変化に伴い、道路除雪のあり方を見つめ直す時期と考えられるので、忌憚のない意見交換をお願いしたい」とあいさつしました。

これに対し佐々木市長は「私が市長に就任して間もなくの平成3年5月に『雪総合対策指針』をつくり、



会 場

克・利・親雪を含めて雪と関わっていく方向を定め、さらに8年10月には「雪処理基本計画」を作成、本年度は雪総合対策を推進するために府内横断的組織・連絡会議を編成、また雪と道路に関する総合的地図「ハザードマップ」を作成するよ

ー「雪は資源、財産である」を突破口に、スポーツや観光イベントの開催をはじめ、豊かな自然と調和した魅力ある街づくりを目指す。
冬の都市のあり方を学ぶため、来年2月・青森市で世界10カ国による国際会議「北方都市会議二〇〇二」を開き、国内外の雪国都市と積極的に交流し、雪や寒さに関する知識と経験を学びたい。

今年10月には「雪国学」研究センター（仮称）を設立し、市民、学会や企業、行政の強い連携のもと、雪に関する国内外の研究機関による研究成果の情報収集、応用技術の開発や生活文化の研究を行い、雪国の暮らし、文化、産業など幅広い分野に取組み、冬でも住んでみたい・うれしい街づくりに努める。

また、今年12月・雲谷にオープンする芸術創作劇場（仮称）では、冬の間に雪を蓄え、夏場に冷房に使うというシステムを導入し、雪を環境に優しい冷熱エネルギーとして利用することに取組む。（2面へ続く）

の意見を市政に反映したい」と述べました。

このあと、市町連側の副会長・部会長、常任理事がそれぞれの立場で市に対する意見、要望を述べ、参会者によるフリートークを開きました。市側のおもな回答は次のとおりです。（カッコ内は質問部会）

「雪を資源とした街づくり」（総務部会）

玄関前の大雪塊は除去

(1面から続く)

【全面委託工区】(建設部会)
除雪、排雪とも業者の自主判断で実施する全面委託工区における委託料は、作業委託契約書で定めており累計降雪量が契約書の範囲外(契約書より多い、少ない)であつたときは、業者と協議のうえ減・増額変更する。経費の支払いは、過去10年の平均降雪量6百26センチを基準とし、多く降る工区には除排雪の回数を多く算出している。

【交差点の除排雪】(交通安全防犯部会)

除排雪作業は深夜の限られた時間に行わなければならぬし、市街化の進展に伴い雪押し場が減っているため、一時的に交差点等に雪盛りせん算出している。



ごみ収集所

ざるを得ない。これに住民から出された雪が積まれることもある。同時にパトロールし、車や歩行者の安全通行に支障となる雪盛りを速やかに取除くようとする。地域住民も交差点への雪出しを自肅してほしい。また

全面委託工区を市内中心部まで大幅拡大したい。

【ごみ収集所の除雪】(環境衛生部会)

冬期間のごみ収集場所が判るよう市で統一した旗とポールを作つて全

町会へ配布し、その目印のある収集所へは寄せ雪をしないよう、除雪業者に徹底させる。

【玄関前の雪塊の除去】(福祉部会)

機械除雪では、どうしても寄せ雪が残るが、極端に大きい雪塊は取除くよう業者に指導している。高齢者宅に旗などで目印を付けることは、防犯やプライバシーの問題もあるので、慎重に対応したい。

【バス停の排雪】(女性部会)
交通部で東部、西部の両営業所に

①路線パトロール員を各4名②バス停除雪要員を各2名を配置③乗務員によるボランティアグループ約10人でバス停の除雪に努めているほか④国、県、市の道路管理者に除雪を依頼している。

【雪捨て場に私有地を借り上げ】

市税条例では、私有財産を無償で直接利用に提供した場合、固定資産税を減免できるが、未利用の私有地を雪捨て場に借り上げたケースがないので、内部で検討する。

資源ごみの分別、まだ不十分

環境衛生と
女性部会

合同で収集場、処理場視察

市民へマナー向上呼び掛け必要

市町会連合会の環境衛生部会と女性部会は6月27日、4月から全市一斉に始まつた資源ごみの分別収集のその後の状況について、松原、北赤坂の両町会のごみ収集所、梨の木清掃工場、原別と油川の処理業者を見学しました。この合同見学会には、市清掃管理課の担当職員と両部会員ら23人が参加しました。

松原、北赤坂両町会のごみ収集所は、ともに小屋方式でしたが、資源ごみの分別状況は、しっかりと分別されていた町会と、混入していた町会との差が見られました。

梨の木清掃工場では、改修工事中



ごみ処理工場

だつたために内部を見学できず、市の担当者からビデオで、ごみの焼却状況の説明を受けました。

見学者一同は、資源ごみの分別に対する市民の意識はまだ不十分で、市民へマナーの向上を呼びかけることが必要だととの声が多く出されました。

◇カラス防止網を配布◇

市町会連合会は、7月2日から4日にかけて、青森市ごみ問題対策市民会議(会長=佐藤久雄・市町連会長)が提供したごみ収集所用のカラス防止網を、今年度希望のあつた2百41町会へ計4百7束を、市町連会務所で配布しました。

4連合町会でパレード

交通安全 危険54カ所を診断

自主防災組織づくりなど課題に

◇新任町長研修会◇



北方都市

「祈願祭」夏の交通安全運動行事の一つとして7月19日、広田神社で交通安全祈願祭が行われ、佐藤久雄・市町連会長はじめ市町連の各部役員が玉串を捧げ、市民全員の交通安全を祈願しました。

【危険個所診断】

市町会連合会は本年5月、各町会から交通安全上、改善を要する危険個所について要望を求めました。これに基づいて7月12、13の両日にわたり、市町連交通安全・防犯部会、市の市民文化部交通安全推進課と都市整備部道路維持課の三者が合同で、東部・西部地区に分け、ローデミラー設置要望個所54カ所について現地診断を実施しました。診断の結果については、8月24日付で交通安全推進課が要望町会に回答しました。

「パレード」各地区の連合町会は、地域住民の交通安全意識の啓発のため、各地区的子供会、老人クラブ、女性部などの協賛で「事故にあわない、事故をおこさない」をモットーに、それぞれ交通安全パレードを開しております。今夏実施したのは次の4連合町会ですが、南部第三区は24年連続でやっています。

南部第一区連合町会	(7月1日)
南部第三区連合町会	(7月20日)
南部第八区連合町会	(7月20日)
西部第五区連合町会	(7月22日)



新任町長会

今年度新しく町会長に就任された59人を対象とした研修会が、6月26日・青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）で、41人が出席して開かれました。

佐藤久雄・市町会連合会会长のあいさつのあと

- ①町会活動と市の支援・青森市市民文化課生涯学習課・川村課長補佐
- ②自主防災組織づくり・同総務部総務課・相馬主幹
- ③青森市ごみ問題対策市民会議への参画

などについて研修し、新任町会長から、市に移管された後の街路灯対策などについて意見発表、質疑応答が行われました。

のぼりなどでムード盛上げ 町北赤坂「北方都市会議」をPR

「北赤坂町会祭り」が8月19日(日)

戸山団地公園で開かれ、近隣町会からも多数参加して大盛況でした。

北赤坂町会はこの祭りで、来年2月7日から10日まで「豊かな北のくらしを育む・環境・文化・生活」をテーマに青森市で開催される国際會議「二〇〇二年・北方都市会議」の成功と、住民協力への意識高揚を図るため、北方都市会議ののぼり、参加10カ国の国旗、横断幕を設営してあります。

ムードを盛り上げました。

また、同町会は会議のシンボルを形どった押し絵2点を青森市へ贈つたほか、毎戸に「北方都市会議」のステッカーを配布、来年1月27日(日)には青森県スレッドドッグ協会の特別協賛を得て「県下犬ぞりレース大会」の開催を計画するなど、住民の一層の意識高揚を図ることになつて

北部第3区連合町会で後潟自主防災会を結成

北部第3区連合町会（加入5町会）は9月2日、自主防災組織の設立総会を開き「後潟地区連合町会防災会」を結成しました。

青森市内で町会を単位とした自主防災組織は、寺町、幸畑ひばりが丘、宮田、桜川団地に加え、今年度から規約等を大幅改正して取組む南部第4区連合町会（荒川地区12町会）と北部第3区連合町会（後潟）とで、6団体（21町会）となりました。



市町連創立50周年記念事業実行委員会

正・副会長ら委員13名で組織

青森市町会連合会が、平成15年度に創立50周年を迎えるに当たり、記念事業の方針等の検討及び諸準備のため、8月29日(水)に開いた常任理事

会で、市町連の正・副会長、常任理事、事務局長の13人による実行委員会を組織しました。

◇今後の行事予定◇

- 平成13年度第2回理事会▽10月1日(月)午後1時30分▽青森市文化会館小会議室4▽町会連合会処務規程ほか3規程の制定の審議ほか
○平成13年度理事・部会員合同研修会▽10月5日(金)午後1時30分▽青森市文化会館小会議室4▽講師：青森市少年育成青森県民会議専門指導員・川村博信氏▽テーマ：「青少年の健全育成と地域の役割」。諸報告など
○福島市町内会連合会30名来青▽10月17日(水)午前10時▽青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）▽交流テーマ：「住民自治組織の現状と課題」▽青森市町会連合会正・副会長、常任理事が出席し意見交換
○青函ツインシティ交流研修会▽10月23(火)・24日(水)▽酸ヶ湯温泉▽テーマ：「今後の交流のあり方」、その

他活動状況について意見交換

- 第24回「町内女性の集い」▽11月9日(金)午前10時▽青森市文化会館
大会議室▽講演・講師①佐々木誠造・青森市長(演題未定)②「ガーデニングづくり」青森市緑と花のまちづくり推進市民協議会会长・野宮全作氏
◇執行部・事務局日誌◇
6・4 町連だより第百五十九号編集委員会(プラザあすなろ)
6・5 北部地域協議会総会(油川市民センター)▽十二年度決算報

全作氏

野脇第一町会長 番地 堅 殿
(平成13年6月2日ご逝去)
妙見第一町会長 若井富士保殿
(平成13年6月27日ご逝去)

川村博信氏▽テーマ「青少年の健全育成と地域の役割」。諸報告など

○福島市町内会連合会30名来青▽
10月17日(水)午前10時▽青森市福祉増進センター（しあわせプラザ）▽交流テーマ「住民自治組織の現状と課題」▽青森市町会連合会正・副会長、常任理事が出席し意見交換

○青函ツインシティ交流研修会▽
10月23(火)・24日(水)▽酸ヶ湯温泉▽テーマ「今後の交流のあり方」、その

告、十三年度事業計画案及び予算 案審議ほか

6・6 花いっぱい運動（ビブレ、
松木屋前）＝サルビアなどの花苗
八百本を植行、弓足二ペンドン、

6・13 常任理事会（総合福祉センターホーム）
ほか（女性部会）

タード）＝各部会所管事業の実施計画の確認、市政懇談会のテーマ審

議ほか
6・15 冠婚葬祭合理化運動の協力

方文書の送付（送付先＝青森県葬祭事業協同組合、各地区連合町会

長に所属町会長への回覧依頼＝福祉部会)

6・26 新任町長研修会（しあわせプラザ）＝自主防災組織づくり、町会の事務取扱いについてほか

(四十一名出席) 総務部会
清掃施設等見学会 梨の木

清掃工場、資源ごみ処理施設ほか
(環境衛生部会、女性部会など二
十三名参り)

十三名参加
7・2・4 カラス防止網配布（町連事務所）

7・12～13 交通安全上の危険個所の市と合同道路診断（八十一町会・百六十一回所）

百六十一個所に交通安全隊獵部会
7・19 交通安全祈願祭（廣田神社）
II（正・副会長など三十八名出席）

“暑くなかつた夏”がアツという間に過ぎて、今や秋の盛り、そして間もなく冬が来ます。市では生活道路、歩道、交差点の除雪車に力を入れ、特にゴミ収集所には目印に統一の旗・ポールを立てて、除雪車が除雪した雪を盛り上げることはしないとのこと。この朗報が実行され、快適な雪国の暮らしを楽しめるなどを期待しましょう。

交通安全防犯部会

7・19 常任理事会（ふれあいの館）
II 副会長、常任理事の承認ほか
2 行文規範会（ごとき会）

7・25 市政懇談会（文化会館）
テーマ「道路除雪を中心とした雪
対策のあり方について」（四十九

名出席 || 総務部会)

●青函町連交流研修会のテーマ・
町連五十周年記念事業の実行委員
の選任ほか